

経営概況

2019年3月期 第1四半期の業績

当第1四半期連結累計期間(2018年4~6月)におけるわが国経済は、政府の経済政策、日銀の金融緩和策の継続等を背景に、雇用・所得環境の改善が進む中、個人消費に持ち直しの動きが見られ、緩やかな回復基調が続いております。一方、今後の景気については、保護主義の台頭の日本経済への影響に留意する必要があります。

当社グループ(当社、連結子会社および持分法適用会社)の主な事業分野である携帯電話等販売市場では、通信事業者による新料金プランの提供、サブブランドやMVNO(仮想移動体通信事業者)の普及により、お客様の選択肢が広がりました。一方で、通信事業者はポイントサービスやコンテンツ等を充実させ、自社の長期的な顧客基盤の維持・拡大に取り組んでおります。

当社では2018年4月に、「社長プロジェクト一部」と「社長プロジェクト二部」を新設いたしました。「社長プロジェクト一部」は変形労働制の活用推進、カメラソリューション等のICT活用、不動産契約、内装・工事等をサポートし全社生産性向上を、「社長プロジェクト二部」はM&Aを含む案件の発掘、事業開発のサポート等、新たな収益基盤の構築を推進しております。

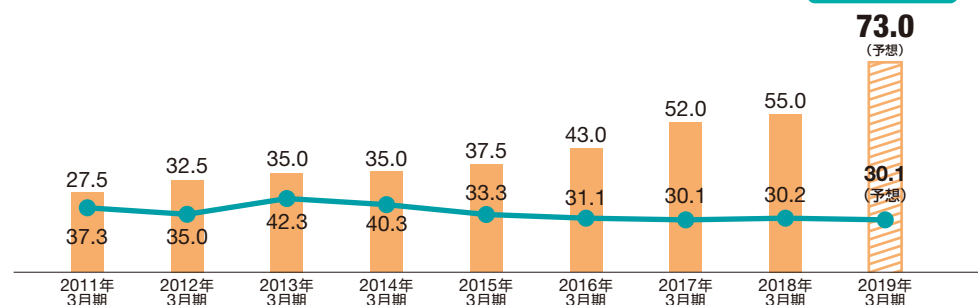
このような事業環境下、当社グループの携帯電話等販売台数は、一部販路における商流の変更に伴い、94.1万台と前年同期を下回りましたが、対計画比では、事業者ごとのばらつきはあるものの、概ね堅調に推移しております。

当社グループの当第1四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高1,156億32百万円(前年同期比5.6%減)、営業利益31億18百万円(同25.1%増)となりました。当社グループでは、2017年12月に(株)クオカードを子会社化したことに伴い、前第4四半期(2018年1~3月)より同社損益を連結しております。当第1四半期連結累計期間において、営業外収益にカード退蔵益25億62百万円を計上した結果、経常利益は57億21百万円(同127.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は38億66百万円(同145.0%増)となりました。なお、上記のカード退蔵益25億62百万円は、2018年5月9日に決算補足説明資料にて公表しております営業外損益(カード退蔵益他)の2019年3月期通期計画値51億円に対して50%超の進捗率となっておりますが、概ね計画どおりに推移しており、現時点で通期の連結業績予想に変更はございません。

配当の推移

■ 1株当たり配当額(円) ● 配当性向(%)

1株当たり18円増配(前期比)

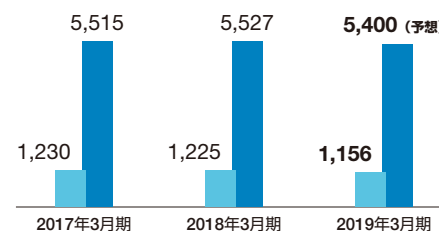


※上記の数値につきましては、過去に実施いたしました株式分割を勘案した数値を掲載しております。

第1四半期連結業績ハイライト

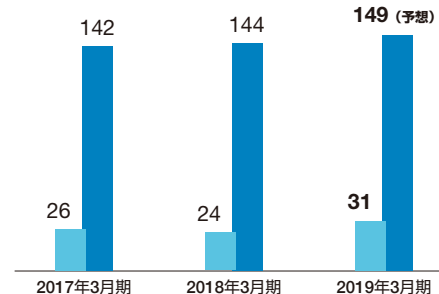
売上高

(億円)



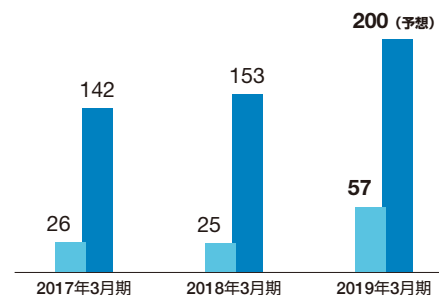
営業利益

(億円)



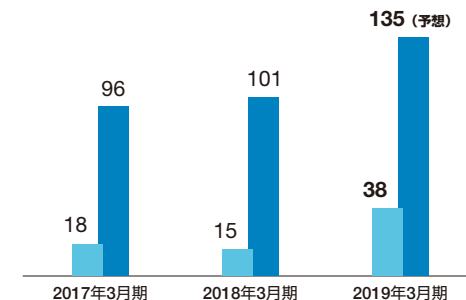
経常利益

(億円)



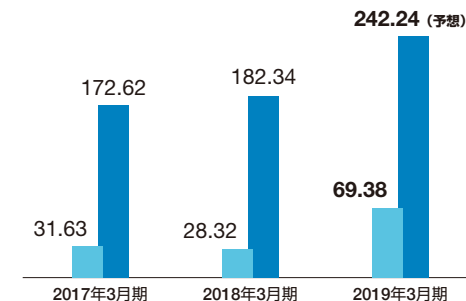
■ 第1四半期 ■ 通期 (単位未満切捨て)

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (億円)



1株当たり四半期(当期)純利益 (円)

(円)



純資産

(億円)

